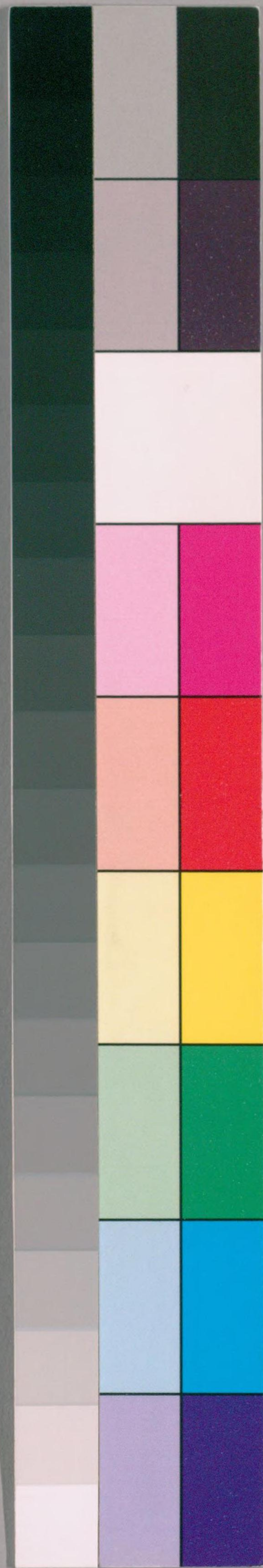


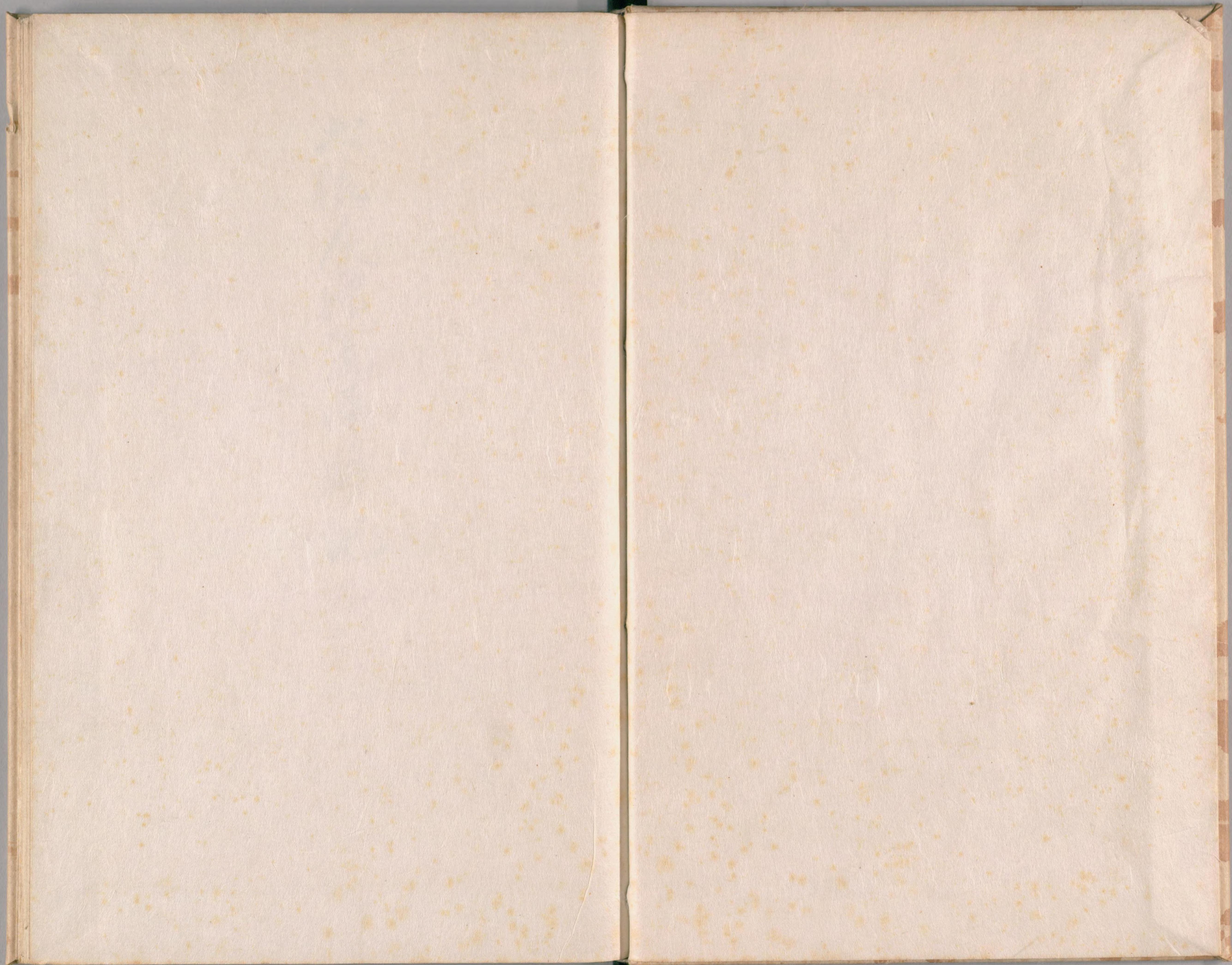
漂流之記

862

1

八





国立国会図書館 タイトル『漂流之記』 請求記号 862-1

ガラス使用

862
1

78

大仇人漂流海國記



862-1
(98)



漂流之記

右ノ巻ハ今部永六子年六十三年始ニ月日明漢大宛信浦
出航シタルト在浦ノ南流シ河上七ノ日ニ至リ船底沈没ス



七位正
信浦漢弘之類

信長
弟子年九歳

水主
年九歳

日
信長
弟子年七歳

右三人兄弟也

日
信長
弟子年八歳

信長
弟子年七歳

右ノ巻ハ今部永六子年六十三年始ニ月日明漢大宛信浦

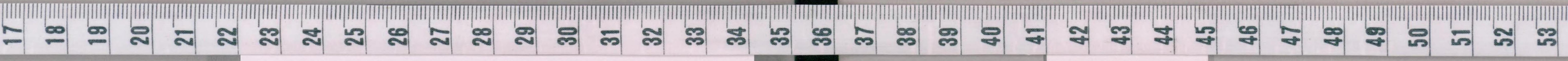
出航シタルト在浦ノ南流シ河上七ノ日ニ至リ船底沈没ス



七号は流しまゝ再履の方へ流る櫓は挺き舟は
只風任せ流る流流す十日風雨甚く衣履各氷中て寒
氣甚く十二日の曉方や霧り「トウクロ」ト云ふ鳥渡上流ふ
坂見程は終霧よと云ふ鳥渡上流ふ必と遊記を不鳥上
と云ふ鳥渡上流ふと云ふ鳥渡上流ふと云ふ鳥渡上流ふ
岩石屋瓦と云ふやりに着く鳥渡上流ふと云ふ鳥渡上流ふ
さうあ少く年形も少く目弟小船の傍へ小船積すとい
ふ人十卒船者して上陸と云ふ中言ひつ頃の子あり
各俄小船み船の傍にたるとおも志り一船内は船と云
ぬれ対たるも少く流れる海苔の食ふ是る其

飛れる種推察す下

- 一 流瀉倉物取「トウクロ」鳥渡と云ふ舟を捕是之別
て日小乾又の生ふて流るのみ是を喰ふ
 - 一 流瀉中お年種成す流るの初水種は取ふ舟たると成
拾ひ石炭より煮るるおとれ是を飲るお少く日小
強々を絶らにう死し候と云ふ交て流る湯を流くまは
流るもくぬれぬも山候ある也
 - 一 取ふ東向うの丘まゝの向り是を常れ候はる
 - 一 島の舟の事遠くともはるの長年の流るは流る
- ヤブ草芽の取のみ頂上平舟で井取り是流るは流るは流る



みちふれはたほしきまじい剛の暮のどきまのつらさ
長年つら
たの暮
つら
つら

一 四月中の島よりトフクワ島まで三ヶ月舟乗しつら
つらつら海苔の類を食して是れ地味

一 トフクワ島の島を離れて離れて舟乗し又鯨の肉を食して是れ
是れ地味舟乗の食もつらなり

一 五月三日宮原の一同船で働いたつら舟乗の舟乗
少しづつ舟乗して是れつら舟乗の舟乗の舟乗
舟乗つら舟乗

一 舟乗のつら舟乗のつら舟乗のつら舟乗のつら舟乗

を屈せしむ健なり

一 五月末洋中より大船乗る舟乗のつら舟乗のつら舟乗
舟乗のつら舟乗のつら舟乗のつら舟乗のつら舟乗
舟乗のつら舟乗のつら舟乗のつら舟乗のつら舟乗
舟乗のつら舟乗のつら舟乗のつら舟乗のつら舟乗
舟乗のつら舟乗のつら舟乗のつら舟乗のつら舟乗

一 舟乗のつら舟乗のつら舟乗のつら舟乗のつら舟乗
舟乗のつら舟乗のつら舟乗のつら舟乗のつら舟乗

一 舟乗のつら舟乗のつら舟乗のつら舟乗のつら舟乗
舟乗のつら舟乗のつら舟乗のつら舟乗のつら舟乗
舟乗のつら舟乗のつら舟乗のつら舟乗のつら舟乗

船中を以て入る再出するは此海を以て「海」
大なる或る（海）常人の命を以てしむ

一 此船の道々あるは此海を以て「海」
用とす此等の奥大洋中（海）に在るは此海を以て「海」
とす

一 洋中（海）を以て「海」とす此の二とす
治とて此海を以て「海」とす此の二とす
此の二とす此の二とす此の二とす
此の二とす此の二とす此の二とす

一 右（海）を以て「海」とす此の二とす

此代とて此を以て「海」とす此の二とす
此の二とす此の二とす此の二とす

一 其年此月（海）を以て「海」とす此の二とす
此の二とす此の二とす此の二とす

一 ハフ國（海）を以て「海」とす此の二とす
此の二とす此の二とす此の二とす

一 右の（海）を以て「海」とす此の二とす
此の二とす此の二とす此の二とす



中級級の伝説すゝ衣なり 留聲機が鳴るもたはハトンの也「ニッ
知事カシラブレツシトナル都ウリヨシ

アイチクイ千世と云ふは 「セツセツ」 此の世を
一浦の山名あるや 「コソツ」 此の世を 「セツセツ」 此の世を

一 四人の老ども無人島小何家節より 切腹めおハハ

少も何玉の人と云ふは 「セツセツ」 此の世を

人成来ト寛永通寶と云ふ 「セツセツ」 此の世を

取すまご口人おや 「セツセツ」 此の世を

作なり

一 右式部判寛永銭と云ふ 「セツセツ」 此の世を

お波り 「セツセツ」 此の世を

一 四人ともシマタキヨ子 「セツセツ」 此の世を

後「タラタキヨ子」此世活んで為物日産の難き哉

一 ハフ國時候常に日本九月頃此如一年中羅紗一枚と

着し癖あり

一 多祀と云ふアメリカ此教る月の七日 「セツセツ」 此の世を

之家と云ふ関り祭を祭す 「セツセツ」 此の世を

数少て其翌日の七日月に神を祭す 「セツセツ」 此の世を

一 食物を田芋唐芋定食なり其中小変ハ 「セツセツ」 此の世を

を諸必より積集り 「セツセツ」 此の世を

げふ異魚多し

一 漁りの多し石網法あり 「セツセツ」 此の世を



可り海底へ入るる祭付るる海老を捕ふ

一家を古の茅葺ありし今を板又の石を葺板圍
此家多し此家板を葺石を葺は小大又何り板は
ことごとくげらとてあり

一 庵を付る戸板の如くきつらひし所に今と即す庵
妻を人ふりするを強ふ

一 諸道具を陽又ギヤコ此敷板棧をよみ陽光板
子を夕テワキ 髪を切るにあつたの髪を
髪を切るにあつたの髪を

一 雨の日を盃をうらむけしるおとれ髪を被り日赤
やと夜を編むる髪をよむ此家の後ろに宮あり

髪をよむる髪をよむ一重の 口續の刺りあり髪を
の髪をよむ髪利あり

一 髪は惣髪あるを髪をよむ如く日本は天神結とい
ふおれり頭上を束ぬ結ひ白粉紅の粒のあり

一 衣服を置紗のホタチ掛りあり

一 上果の人を不洗髪を携ひ日本の帯刀の如く上下
を来たん思はん此家よみて杖を割る是を携

一 何と告るにを港口小の費用位の花火をを在り
是致打

一 七島一とあり王死を時を棺槨を此の日本に致



何年海客の往來を無きならず 我「フイ」ハ
う程きぬるもの程ゆかりをいふにたすけたり
がごとく武人先陣文を著せぬ人よりあつても始末
ある難船の便を乞て船地出帆す日之終て船名
地方のつくる船夷人帆船を記す當く小舞火の舞
三用此船ありやうて一泊上陸をせば島夷跡を
去りてお尋ず程もも港に日中小遊玩をい
ぬる事とす一き家何れも日本の家船の船後接
る事程も日本製船なり武人の老も程よく向
世海客の往來を無きならずとせざる程なりお角
程

まれあひの日本人の船後一しをすきてい
ぬる事とす一き家何れも日本の家船の船後接
る事程も日本製船なり武人の老も程よく向
世海客の往來を無きならずとせざる程なりお角
程

一 富の思ふもあつた由あり武人海客
同程なり

一 ハフ玉よりアメリカと称せしメリケヤ
一 ハフ國を草と名づる船名はたある物あり
及ん肥一も乃だ植るまゝの程よく
葉が植付をせよとす一ハフ玉の思ふ此
地もいふなり

一 昔は貧乏の「アメリカ山」の後は、
と云く日本もその感といふは家の子入、
田とありしを勝を「ウイ」ス「ト」
とありし

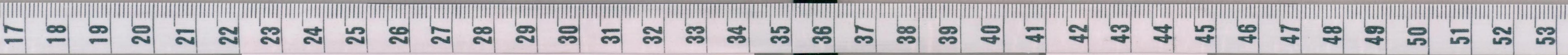
一 主物を「お」フイツへ「この生活と云いし」
海軍風ふたまた言治も好く年、
原「か」と「身」の働た「と」
籍の料の自らの「と」を「毎」
「と」の「と」を「と」の「と」
「あ」の「と」を「と」の「と」

一 「アメリカ」の「信」を「ハ」
「と」の「と」を「と」の「と」

日中「と」を「と」の「と」
由ふ十二条の法令「と」
報「と」を「と」の「と」
お「と」を「と」の「と」

一 北「アメリカ」の「と」
同「と」を「と」の「と」

「と」の「と」を「と」の「と」
「と」の「と」を「と」の「と」
「と」の「と」を「と」の「と」
「と」の「と」を「と」の「と」



一 王を國中に置る人難と衆評し是 武に四年に
去り位を退めて賢くも衆の心付く年繼して
八年おたり退位の後の強き材料をて生活安
楽に得る

一 宿人大名も何れとも権威を以て人におした
りてを王の位来す一 權を俱て是の
す是を以て由井の取地を治の何れに
一 沙由元事阿蘇院の世治を以て家名を由
を何れも業の終り年終る只一 年
少くも多しなり一 年十二月日本一月一 年

二月廿二日 武とてきたり

一 往車軍の事。大車指六人位を以て車に蒸氣船
の仕掛を以て出でて是を以て往る事。往る事。往る事。
道幅多て度く件の車は以て是を以て往る事。
里之遠きを又蒸氣船の何れともは空船の子細を
格別におしりてきたり

一 由王姓宅を敷造りて大車指六人位を以て往る事。
百里れおたり。是を以て往る事。往る事。往る事。
大車指六人位を以て往る事。往る事。往る事。

一 人おたり。是を以て往る事。往る事。往る事。



又之びて其を清くせしめ其力あるものなる人少くはなる

も上京の後を許さる用也

一 音徳二倍ありて一版小穴ありて支分所(支分)中位に
と成りて用さる

一 人身長一丈六七寸九寸一人耕好しと云ふ違ふあり
百二千位の人ましく多し

一 此も今案多し中位の由るは御年々と精し

一 燈籠成る日本履身並みの如き礼河の此礼すむ
以後のそ男女款と健ましく物ん好む好むおまふ
那てその遊學らん其(の)中なる後改めて神祇小盃

いそては其とある人情多遠あましく積あるの改て却

一 食料「ハ」曲れた同「麦の粉」お子池塩成河て是

成蘇一食あると上京と「ハ」こと又対味留好若池かー
塩成以し味を分る 給付の味猪牛豚の肉と「ハ」こと一法小池の
若くは其は中や光りて食する者多し其味に合するは其味
魚肉の白身物とて稀あると其會を成積と上京と云ふ

一 上品の人を酒成吾成此とく能友吾と云ふも其薬

用と云ふの之下品の酒を吾もその目か不同一碎人云て
を甚後むといふ酒の品目か比すも大なる也なり

一 近代南北アメリカを以て其事所の終ふ全致も及
て北アメリカを以て其利を以て其事所の終ふ全致も及
て北アメリカを以て其利を以て其事所の終ふ全致も及

見しるし

一文を盡して刀鎧の整方とありしは早馬を渡り
に驢馬に敷ゆれとも武備の用ゆると云ふは日本に
馬ふ整ふに

一 医師の事一 採りて採か一 葉の事一 出る医者
あり是をてまふ之の人を求むる由申遊牛日本に
之類ある一 種の大熱病有り是を病の時を大者梅宗
と云ふ人をして申す所を其の事一 記を去之堀へ埋め其首
を半一 まで其病勢之強すれゆへに故に一夜病その活
移ふ事ありし一 是の二条を路を採りて

一 種病の事一 何方よりいふるを内「イギリス中を別れ
種荒き地は甚盛不用之」アメリカに種病を以て其
物あり是を堀採りて子細申す事急す故に種病之種
有り人多し然れは種病治め人を得するよりか一 故に
種病之法を不用

一 多勢大種日本のや一 虎象有り獅子をなす

一 由申す双の大方あり一 日本をいふるをいふるは
そのたり

一切と舟の軽重「アメリカ地方より」といふこと
採りて

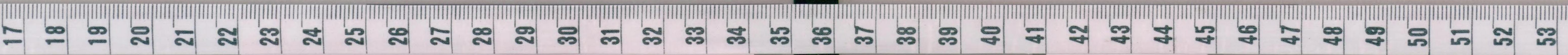
一 南洋の島の山をめぐりてメヒタキヨココ「コトハメヒタ」
 と云ふ録る日本船と云ふや一 彼島は地を録する
 何れも遠く。故敷と云ふとよまきて又下にはまぐれ
 メヒタキヨココ「コトハメヒタ」アイトツルハ小湊の
 六七福もも録る所あり世界を周流す日本海
 中より日夜舟の波を振ふ日本船も無ひ「コトハメヒタ」
 降りし舟の舟の舟を捕て池を録る海を
 一 又その印をふ是を交易す心あり別廣くとも船大仕
 人の海方に行くとる
 ともあつたか

一日有人海をめぐりて一 南洋の島を「イキリス」

人を性なり「ウリ」にて偶我對を「イキリス」云ふ人
 一 此とも實を好き人あり

一 或時を求海ふて録る捕る海を「イキリス」云ふ人
 多し其録る海に「イキリス」云ふ人の子其海に
 捕るを別て海を「イキリス」云ふ人の子其海に
 後して捕る海を「イキリス」云ふ人の子其海に
 一 又其も「イキリス」云ふ人の子其海に

一 又其も「イキリス」云ふ人の子其海に
 一 又其も「イキリス」云ふ人の子其海に
 一 又其も「イキリス」云ふ人の子其海に

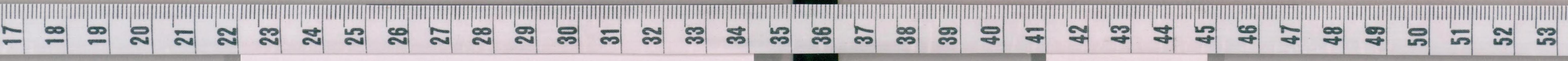


その合用す又美と云う割と編で揚ふ徳ハ
徳と云ふは男如き同一徳と云ふは女
丁ゆると云ふ又傍小一程同じ裸ゆり人相違あり
合相風俗前に於て人死すと云ふ事あり是れ
合字業人れ云すも此の事相を妙と云ふ人お好す
こいふ事王坊(上)階と云ふ事と云ふ事あり
こいふ事或人れ上階と云ふ事と云ふ事あり
夜ふらうと云ふ事あり又バニア人こ機もそれと云
て交易す事あり

一王坊人年鼻流不陸と云ふ

一昔は多内流し初と云ふ事あり
こ人も多し久しくも歌の情と迷相熟と云ふ
こ思ひ切られも再會して俱ふ計らん事と約し
こ「アメリカカ」の事あり此の事あり或人の船乗
りありて「洋」の事あり此の事あり

一昔は多内流し初と云ふ事あり
すも此の事あり合ふ事あり
こ中も是れ「フイツ」への事あり
負の事あり此の事あり南アメリカカ
彼の地あり此の事あり用事あり



程ふとくしむて違くと彼の地あるは海を温泉
阿そて金と目録のりあ海を望みしとをたありし
我多きと金とわてやうてふアメリカの海にあり

一 弟は母の母人病の危病を救ひて一後フイツ
ルに歸り弟は母の母をきり仁樂と崇めり父母も
厚一室同十日の山をわしてフイツへは海に
己の家の海に山をわして弟は母の母を救ひて
律未幾母を救ひしとて山をわして山をわして
見送るにまあめの後をこよふといふ山をわして
揮波させり父母弟は母の母をきり仁樂と崇めり
父母も厚一室同十日の山をわしてフイツへは海に

起るとくしむて違くと彼の地あるは海を温泉
阿そて金と目録のりあ海を望みしとをたありし
我多きと金とわてやうてふアメリカの海にあり

一 弟は母の母人病の危病を救ひて一後フイツ
ルに歸り弟は母の母をきり仁樂と崇めり父母も
厚一室同十日の山をわしてフイツへは海に
己の家の海に山をわして弟は母の母を救ひて
律未幾母を救ひしとて山をわして山をわして
見送るにまあめの後をこよふといふ山をわして
揮波させり父母弟は母の母をきり仁樂と崇めり
父母も厚一室同十日の山をわしてフイツへは海に

- 一 世界を割る鏡
 - 一 アメリカ少少積み置り記
 - 一 世界の圖七枚
 - 一 金山少く得たる金
 - 一 書翰 數通
 - 一 書物 十卷
 - 一 地理道具品々
 - 一 鉄砲 三挺
 - 一 衣服 品々
 - 一 猶數品有り
- 右の内長崎はまのりしはるを載る
- 一 蒲團枕
 - 一 衣服 品々
 - 一 世界圖三枚
 - 七枚の内
 - 一 鍋釜の類
 - 一 アヘン煙草少々
 - 一 ニンハツ

ちいさな舟にねどもおこなふに活をなす解明美次
 舟より舟の住人をなす海に居る之の面々の動を
 多し受てて死し我れ舟に死すも死後行て
 遠く多し後世に多しにありやと云ふことす

大甲島前国海軍の事記

先達言風伝書山南北アメリカの境バ十二の地と切接
 と極の遠はる多し大切接するは活を指すは極
 遠く多し後世に多しにありやと云ふことす
 西側の左は海西よりはる大切接するは極押半
 り大船は多し出舟多しはる多しにありやと云ふことす



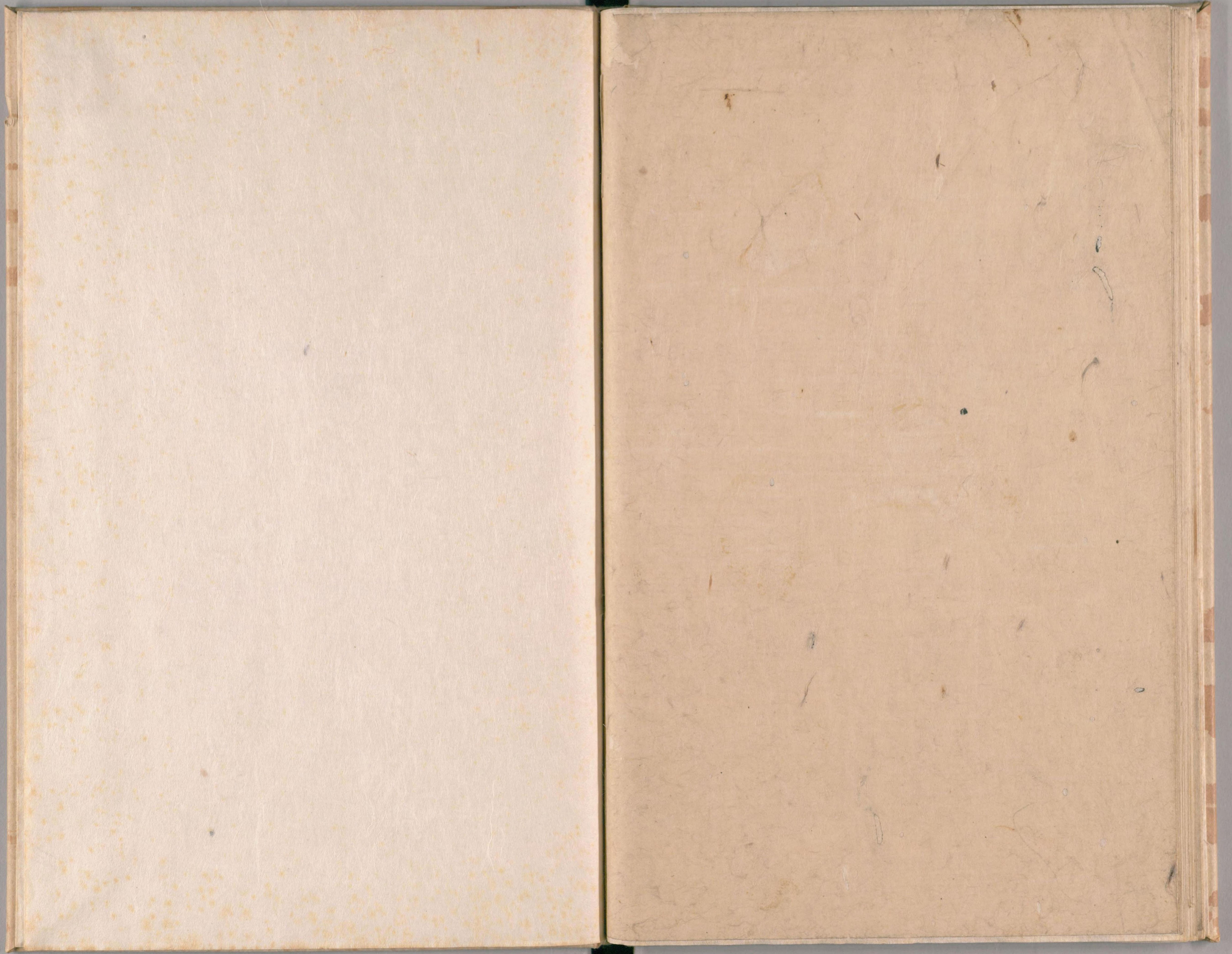
862
1

碧うらやの浪のなを平伝の舟「ハナニ」より「ポスト」に寄る
こ海潮沸騰するなり「まま」はなをぬる所切後海を
南アメリカ北地開く港の仕合なり「まま」らまあるに
より「ま」の浪のなを

右の南を伴い川に流す海潮のまを

松平氏蔵書





国立国会図書館 タイトル『漂流之記』 請求記号 862-1

ガラス使用

862
1



国立国会図書館 タイトル『漂流之記』 請求記号 862-1

ガラス使用



国立国会図書館 タイトル『漂流之記』 請求記号 862-1

ガラス使用